中川運河にぎわいゾーン にぎわい創生プロジェクト

平成 29 年 3 月

名古屋市

目次

１．にぎわいゾーンの現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（１）はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（２）にぎわいゾーン周辺の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
（３）にぎわいゾーンの現状分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
（４）課題への対応方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

２．にぎわいゾーンの将来の開発イメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・８
（１）にぎわい創生のイメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
（２）導入機能のイメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

３．にぎわいゾーンへの先導的な導入機能・施策・・・・・・・・・・・・１３
（１）にぎわい拠点づくり　３大プロジェクト・・・・・・・・・・・・・１４
（２）行政が導入する機能・施策（ハード施策）・・・・・・・・・・・・１６
（３）開発イメージの実現に向けた民間支援策（ソフト施策）・・・・・１８

４．中川運河の魅力発信（ＰＲ戦略）・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

５．今後の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
（１）にぎわい創生プロジェクト全体の進め方・・・・・・・・・・・・・２３
（２）３大プロジェクトの進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３

（参考）
中川運河にぎわいゾーン検討懇談会　開催の経緯・・・・・・・・・・・・２６
中川運河にぎわいゾーン検討懇談会　委員名簿・・・・・・・・・・・・・２７

１．にぎわいゾーンの現状と課題

（１）はじめに

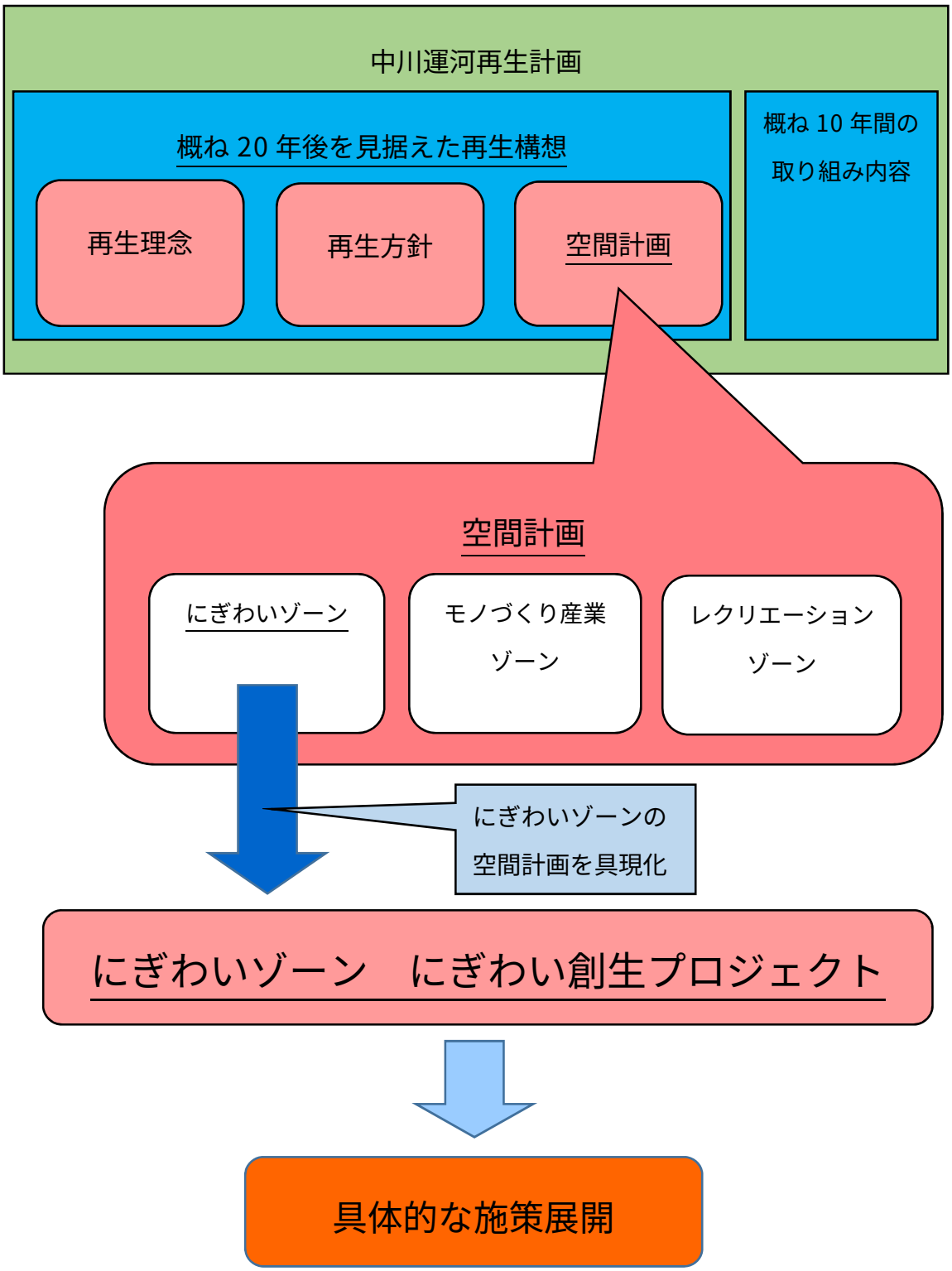
本市は名古屋港管理組合と共同で、中川運河の歴史を尊重しつつ、都心と名古屋港を結ぶ広大な水辺に新たに求められる価値や果たすべき役割を見据えた「中川運河再生計画」を平成 24 年 10 月に策定しました。この再生計画は、概ね 20 年後を見据えた再生構想と、概ね 10 年間の取り組み内容で構成されており、この再生構想において、再生理念、再生方針、空間計画が示されています。これらのうち、空間計画においては中川運河を土地利用や開発動向等を踏まえ３つのゾーンを設定しており、堀止と松重閘門から長良橋までの地区を「にぎわいゾーン」と設定しています。

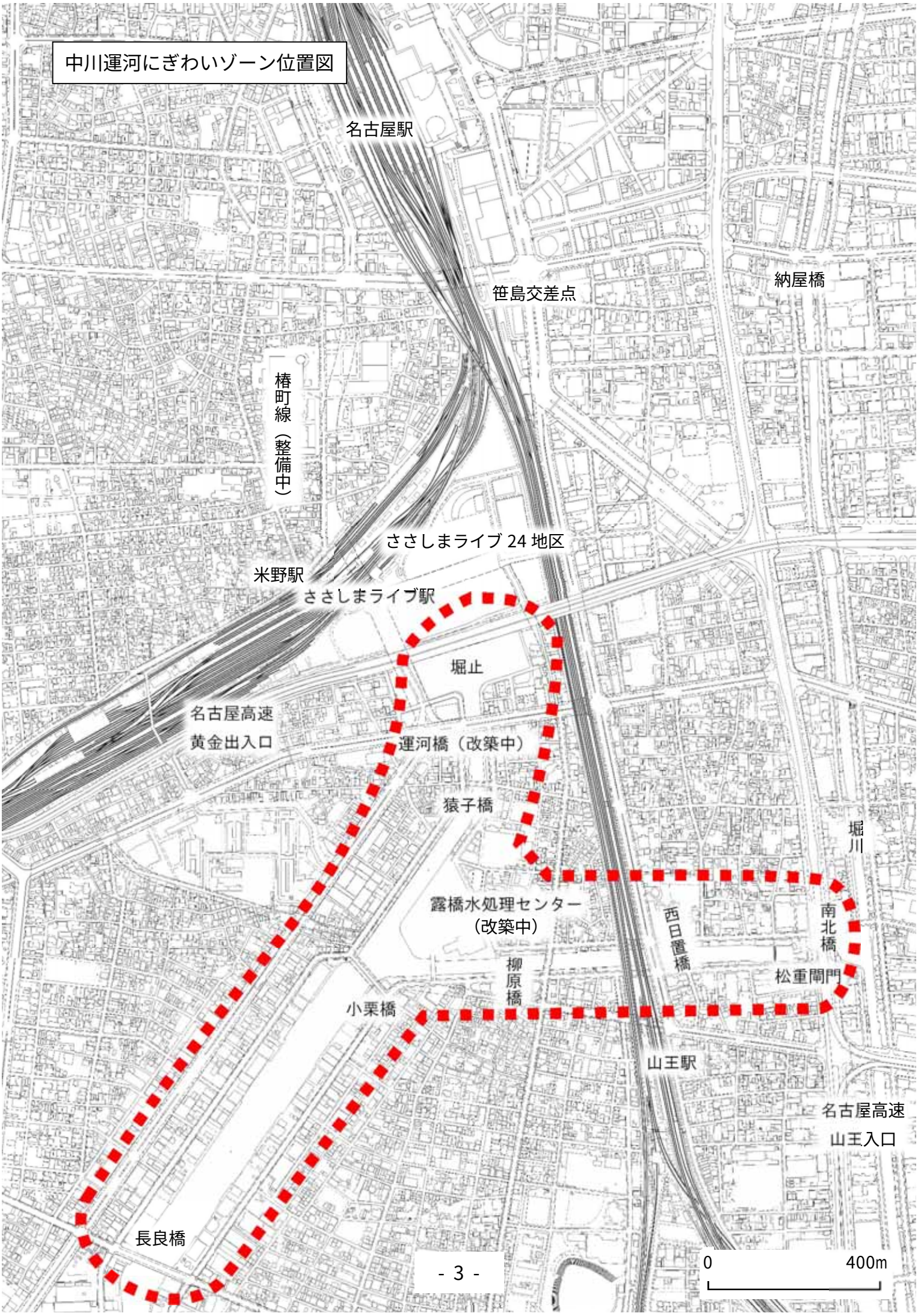
一方で、この再生計画の策定以降、名古屋駅周辺では平成 39 年のリニア中央新幹線開業を見据えた様々な計画が進められているとともに、ささしまライブ 24 地区のまちびらきが半年後の平成 29 年 10 月に迫るなど、にぎわいゾーン周辺におけるまちづくりの動きが活発化しています。

これらにぎわいゾーン周辺におけるまちづくりの動きを踏まえ、再生計画における空間計画を前提としつつ、民間投資を誘導するとともに、運河沿岸用地のみならずその後背地までその開発効果を波及させるためにも、具体的なまちづくりのイメージを示す必要性が高まっています。

そのために「中川運河にぎわいゾーン検討懇談会」を４回にわたって開催し、有識者や関係者のご意見を伺いながら、再生計画に掲げられた空間計画を具現化するために導入すべき機能や施策を「中川運河にぎわいゾーン にぎわい創生プロジェクト」として取りまとめました。

【中川運河再生計画と「にぎわい創生プロジェクト」の関係】




中川運河にぎわいゾーン位置図
名古屋駅
笹島交差点
納屋橋
椿町線（整備中）
ささしまライブ 24 地区
米野駅
ささしまライブ駅
堀止
名古屋高速
黄金出入口
運河橋（改築中）
猿子橋
堀川
露橋水処理センター
（改築中）
西日置橋
南北橋
松重閘門
柳原橋
小栗橋
山王駅
名古屋高速
山王入口
長良橋
0
400m

＜参考＞　中川運河再生計画での「にぎわいゾーン」の位置づけ

【港と文化を感じる都心のオアシス】

ささしまライブ 24 地区の開発と連携し、緑地･プロムナードの設置や、沿岸用地へのカフェ、レストラン等にぎわい施設の誘導、水上交通の運航などを展開して、運河の魅力と回遊性を高めるとともに、運河の歴史や文化･芸術を楽しむ市民活動の継続的な実施を通じ、都心地域に集まる人びとが訪れたくなるような「港と文化を感じる都心のオアシス」の形成をめざします。

再生イメージ

・緑地･プロムナードが設置され、沿岸用地には商業施設や文化･芸術施設等が立地しており、憩いとにぎわいのある空間となっています。
・倉庫群や松重閘門等の歴史資産が活用され、味わいと魅力のある景観が形成されています。
・運河特有の空間を活用した市民による文化･芸術活動が継続的に行われています。
・プロムナードや橋梁、建築物等の照明を利用した魅力的な夜景が演出されています。
・堀止に乗船場が設置され、都心と港をつなぐ水上交通が運航されています。
・露橋水処理センターの高度処理水の活用や松重ポンプ所の改修等により、水循環が促進し、良好な水環境が創出されています。

にぎわいゾーンの再生イメージ

（2）にぎわいゾーン周辺の状況

にぎわいゾーンに隣接するささしまライブ 24 地区では土地区画整理事業が進められており、貨物駅跡地部分においては建築が概ね完了し、平成 29 年 10 月に全ての民間施設の開業を迎える「まちびらき」が予定されています。

基盤施設については、土地区画整理事業により整備される 1 号公園や高架下広場の西側部分、臨港緑地が平成 29 年度から供用されるとともに、将来の堀止東側への乗船場の整備に先立ち、堀止北側に暫定乗船場が整備されます。また、平成 16 年 4 月より全面改築が行われていた露橋水処理センターが平成 29 年 10 月に本格稼働され、高度処理が実施される予定です。さらに、この高度処理水を堀止に送水することで、堀止の水質改善を図る取り組みも実施します。あわせて中川運河の水循環促進のため、松重ポンプ所の更新にも平成 27 年度から取り組んでいるところです。

沿岸用地の新たな土地利用の転換については、平成 27 年 1 月に名古屋港管理組合において「中川運河再生計画に基づく沿岸用地の土地貸付けに関するガイドライン」を策定し、このガイドラインに基づきにぎわい施設の公募を実施してきました。この公募によるバッティングセンターと喫茶店が、平成 28 年秋に開業を迎えました。

公募による喫茶店のテラス席

（3）にぎわいゾーンの現状分析

前節までの現状を踏まえ、にぎわいゾーンの強みと弱みを明らかにするために SWOT 分析を行いました。

	STRENGTH【強み】	WEAKNESS【弱み】
内部環境	○ 都心と名古屋港をつなぐ広大な水辺空間 ○ 堀止周辺の公園などと一体利用可能な緑地（整備中） ○ 昭和の面影を残す倉庫群と地生えの樹木 ○ 松重閘門をはじめとする歴史的建造物 ○ 名古屋では数少ない水上交通の定期運航（予定）	○ 認知度が低く、人の流動性がない ○ 沿岸用地の低利用と街に背を向けた施設配置（街との一体性がないため、分断させている） ○ 水際線に近寄れない。水面が見えない（一般的な運河は、沿岸用地が桟橋、緑地空間） ○ 顕著に進まない水質浄化と臭い ○ アクセスの悪さ
	OPPORTUNITY【機会】	THREAT【脅威】
外部環境	○ 芸術活動の活性化で地域協働の萌芽 ○ 沿線開発の具現化（名古屋駅周辺まちづくり構想、ささしまライブ24地区、みなとアクルス、金城ふ頭） ○ 都市計画道路椿町線の完成による名古屋駅との近接性向上	○ 名古屋駅、金山駅への集積が高まることによる狭間で更なる地盤沈下の可能性 ○ 水辺空間を無視した乱開発の進行 ○ この機会を逃せば、名古屋の親水空間の活用は困難

この分析の結果から、にぎわいゾーンが抱える課題を次の４つに整理しました。

課題１：まちづくりの方向性が具体的に見えていない

課題２：港湾関連施設中心の土地利用で、訪れたくなる施設が少ない

課題３：水辺空間でありながら、親水性に欠けている

課題４：イメージが良くない

（４）課題への対応方針

前節に示した各課題に対する対応方針を以下に示します。

課　　題		対応方針
１	まちづくりの方向性が具体的に見えていない	にぎわい創生のイメージなど、将来の開発イメージを明らかにします 【２．にぎわいゾーンの将来の開発イメージ】
２	港湾関連施設中心の土地利用で、訪れたくなる施設が少ない	魅力的な拠点の形成に向け、導入すべき機能や施策を明らかにします 【３．にぎわいゾーンへの先導的な導入機能・施策】
３	水辺空間でありながら、親水性に欠けている	親水性を高めるために、導入すべき機能や施策を明らかにします 【３．にぎわいゾーンへの先導的な導入機能・施策】
４	イメージが良くない	ＰＲ戦略を策定し、魅力発信に取り組みます 【４．中川運河の魅力発信】

次章以降において、この対応方針に基づいた課題解決のための取り組みを述べます。

２．にぎわいゾーンの将来の開発イメージ

（１）にぎわい創生のイメージ

再生計画に掲げられた再生構想の具現化に向け、にぎわいを創生するイメージをＳＴＥＰ－１、ＳＴＥＰ－２の２段階に分けてまとめました。

リニア中央新幹線開業の平成３９年を意識しつつ、ささしまライブ２４土地区画整理事業が平成３３年度に完了することを踏まえ、ＳＴＥＰ－１では概ね５年後をイメージします。ここでは行政によるまちづくりのきっかけづくりとして、にぎわいゾーンの核を形成するための堀止東側への拠点整備、人の流れを創出するための散策路の整備、沿岸の拠点整備の一環としての芸術活動の拠点整備を行いつつ、業態転換の誘導のための沿岸用地の規制緩和を進め、「ささしまから小栗橋、露橋水処理センターにかけていくつかの拠点（オープンなアトリエ、個性的な飲食店等）が立地し、人の流れが感じられる状態」の実現をイメージします。

その後のＳＴＥＰ－２では、ＳＴＥＰ－１での行政によるまちづくりのきっかけづくりを契機とした、背後地を含めた開発誘導などに基づく民間主導のまちづくりの進展により、「ささしまから松重閘門公園にかけて多くの拠点が立地するとともに、周辺から運河を眺めることができるようになり、人の流れや憩う人が多くみられる状態」の実現をイメージします。

にぎわい創生のイメージ

堀止東側への拠点整備 （にぎわいゾーンの核）	散策路の整備 （人の流れの創出）	芸術活動の拠点整備 （沿岸の拠点整備）

ＳＴＥＰ－１

行政によるまちづくりの
きっかけづくり

沿岸用地の規制緩和
（業態転換の誘導）

概ね５年後
（33 年度ささしま完了）

【イメージ】
ささしまから小栗橋、露橋水処理センターにかけていくつかの拠点（オープンなアトリエ、個性的な飲食店）が立地し、人の流れが感じられる状態

ＳＴＥＰ－２

民間主導のまちづくりの
進展

背後地を含めた開発誘導

【イメージ】
ささしまから松重閘門公園にかけて多くの拠点が立地するとともに、周辺から運河を眺めることができるようになり、人の流れや憩う人が多く見られる状態

（２）導入機能のイメージ

にぎわい創生のイメージの実現に向け、他都市での事例などを参考に、にぎわいゾーンでの展開が効果的だと考えられる先導的な導入機能・施策のイメージをまとめ、次の５つに整理しました。

キーワード		先導的な導入機能・施策の例
1	民間開発の誘導	堀止東側市有地での民間事業者公募
2	規制緩和	倉庫の転貸、狭小用地の公募
3	回遊性の確保	散策路・ジョギングコースの整備
4	アクセスの確保	駐車場の整備
5	緑地等での PPP	カフェ・レストランの設置

【１】民間開発の誘導

民間の投資を誘導し、エリアの核の整備を行うため、堀止東側の市有地において、民間事業者を公募したにぎわい施設を整備することが考えられます。ここはささしまライブ 24 地区に隣接していることから、ささしまをはじめとする都心部からの開発効果やにぎわいの滲み出しが期待される場所でもあり、民間活力による整備効果が高いと考えられます。さらに、ささしまで行われているエリアマネジメントの展開が期待されます。

【２】規制緩和

中川運河の沿岸用地は臨港地区として指定されており、倉庫をはじめとした港湾活動と関係のある用途の利用に制限されています。また、沿岸用地の土地貸借にあたっては転貸が禁止されているとともに、土地の返還にあたっては更地での返還が義務付けられているなど、近年求められているにぎわいを創出するための商業的な利用や、歴史的価値の高い倉庫の保存・活用などを難しくしている側面があります。

そこで、これら規制を緩和していくことが特ににぎわいゾーンでのまちづくりにおいては効果が高いと考えられます。

【３】回遊性の確保

にぎわい創出のためには回遊性の確保が必要です。そのためには、魅力的なスポットが点在する必要があるとともに、それらを結ぶものが必要です。そのために、運河沿いの散策路やジョギングコースを整備することが考えられます。

【４】アクセスの確保

にぎわいゾーンは堀止北部にあおなみ線ささしまライブ駅、東支線南部に名鉄山王駅があるものの、名古屋駅からは距離があり、アクセス性が高い地区とはなっていません。自動車利用が多いこの地域の特性も踏まえ、駐車場を整備し自動車アクセスを容易にすることが考えられます。

また、公共駐車場の整備により、駐車場を設置せずに土地を利活用することが可能となり、特に狭小の土地の利用が活性化することが見込まれます。

【５】緑地等での PPP

回遊性を高めるための魅力的なスポット整備の一つとして、カフェやレストランの整備が考えられます。整備箇所や整備手法の一つの例として、堀止に隣接する１号公園や堀止緑地をはじめとする緑地等でも PPP 事業による整備を提示します。

この他、松重閘門などの産業遺産の活用、水質浄化の取り組みが考えられます。

にぎわいゾーンへの先導的な導入機能・施策のイメージ

【1】民間開発の誘導

＜機能・施策＞
堀止東側市有地での民間事業者公募

交流拠点（大阪市）

ポートビル（ららぽーと豊洲）

レストラン・結婚式場（名古屋市）

【2】規制緩和

＜機能・施策＞　倉庫の転貸狭小用地の公募

倉庫を活用したレストラン（横浜市）

倉庫を活用したショップ（横浜市）

倉庫からの業態変更

【3】回遊性の確保

＜機能・施策＞散策路、ジョギングコース

川沿いの散策路（東京都）

視点場（露橋水処理センター）

【5】緑地等の PPP

＜機能・施策＞　カフェ・レストランの設置

川沿いのカフェ（福岡市）

スターバックス（富山環水公園店）

【4】アクセスの確保

＜機能・施策＞　駐車場の整備

景観に配慮した駐車場の整備（名古屋市）

３．にぎわいゾーンへの先導的な導入機能・施策

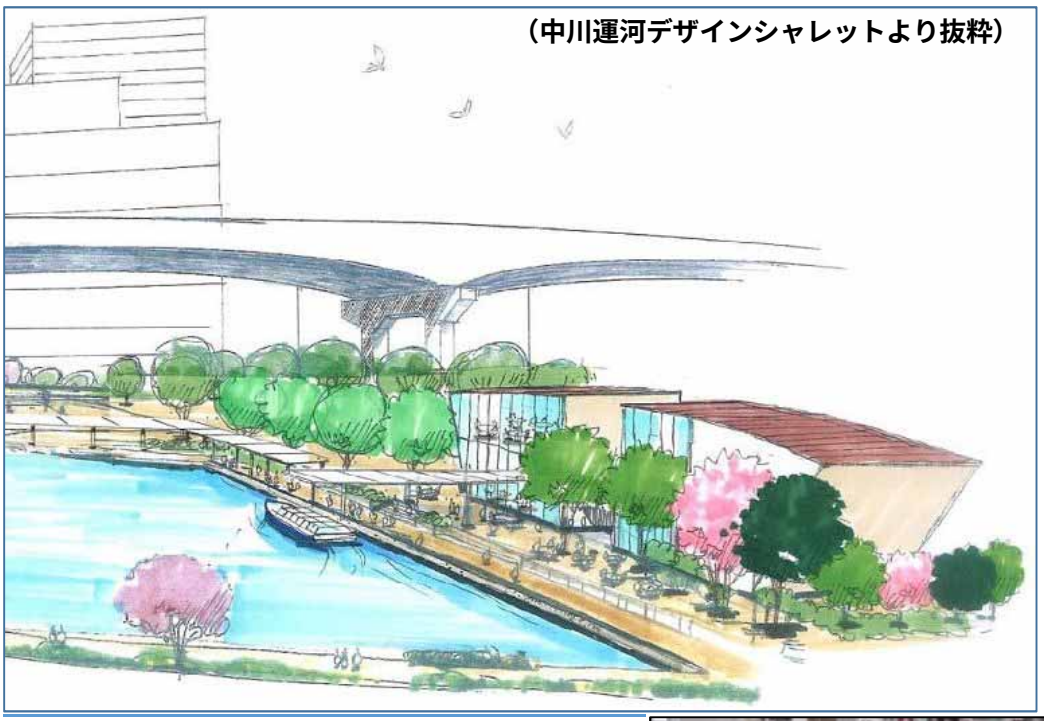
前章におけるにぎわい創生のイメージの実現に向け、導入機能のイメージで提示した先導的な導入機能・施策をイメージしつつ、にぎわいゾーンに導入すべき以下のような機能の導入や施策の展開を進めます。

これら導入機能・施策のうち、新規に展開する施策等の中から、にぎわい拠点づくりという観点に着目し、エリア・回遊・イベントの拠点づくりに資する施策等として次の３つを３大プロジェクトと位置づけます。あわせて、にぎわいを創出するハード・ソフト両面からの取り組みを明示し、にぎわいゾーンにおけるまちづくりの推進やにぎわい創出に向け、先導的・積極的に推進します。

（1）にぎわい拠点づくり　３大プロジェクト

プロジェクト		主な企画・実施主体	主な事業展開主体
①	堀止東側の市有地（名古屋港管理組合管理予定地）でのエリアの拠点づくり （堀止東側の市有地における乗船場を付随したにぎわい施設の民間事業者公募）	名古屋市 名古屋港管理組合	開発事業者 商業事業者
②	沿岸用地の規制緩和による回遊拠点づくり （倉庫のリノベーションによる用途変更や転貸を認める規制緩和）	名古屋市 名古屋港管理組合	倉庫所有者 商業事業者
③	エリアマネジメントによる公園等へのイベント拠点づくり（ささしまと連携したエリアマネジメントによる、堀止周辺の公園等の一体管理・高質管理）	名古屋市 名古屋港管理組合 まちづくり協議会	

①　堀止東側の市有地（名古屋港管理組合管理予定地）でのエリアの拠点づくり



■企画・実施：名古屋市・名古屋港管理組合
■事業展開：開発事業者・商業事業者
・堀止東側の市有地における乗船場を付随したにぎわい施設の民間事業者公募

（TOKYO CRUISE 浅草乗船場）

②　沿岸用地の規制緩和による回遊拠点づくり

■企画・実施：名古屋市
　　名古屋港管理組合
■事業展開：倉庫所有者
　　商業事業者
・倉庫のリノベーションによる用途変更や転貸を認める規制緩和

（木造倉庫を活用した店舗/中川区）

（T.Y.HARBOR/東京・天王洲）

③　エリアマネジメントによる公園等へのイベント拠点づくり

（ささしま１号公園・高架下広場・臨港緑地）

■企画・実施・事業展開：名古屋市・名古屋港管理組合・まちづくり協議会
・ささしまと連携したエリアマネジメントによる、堀止周辺の公園等の一体管理・高質管理

（２）行政が導入する機能・施策（ハード施策）

	機能・施策	主な企画・実施主体	主な事業展開主体
①	散策路・ジョギングコース整備の事業化（回遊性を高める取り組み）	名古屋港管理組合	
②	北支線・東支線における空地の確保（視点場や休憩スポットの整備、カフェ等の誘致、緑化）	名古屋市 名古屋港管理組合	名古屋港管理組合 商業事業者
③	沿岸用地などへの駐車場の設置	名古屋市 名古屋港管理組合	駐車場事業者
④	水質改善	名古屋市・名古屋港管理組合	
⑤	水上交通の活性化	名古屋市 名古屋港管理組合	舟運事業者

①　散策路・ジョギングコース整備の事業化【企画・実施・事業展開：名古屋港管理組合】

回遊性を高める取り組み

緑地と一体となった散策路（北九州市）

運河沿いのプロムナード

②　北支線・東支線における空地の確保【企画・実施：名古屋市・名古屋港管理組合】【事業展開：名古屋港管理組合、商業事業者】

視点場や休憩スポットの整備、カフェ等の誘致、緑化

視点場や休憩スポット

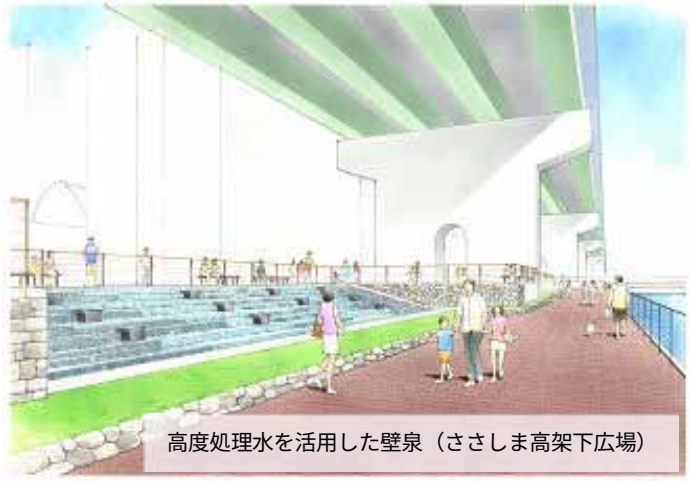
水辺のにぎわい（門司港）

③　沿岸用地などへの駐車場の設置【企画・実施：名古屋市・名古屋港管理組合／事業展開：駐車場事業者】

緑化した立体駐車場（東京都）

1 階を商業施設とした立体駐車場（高松市）

④　水質改善【企画・実施・事業展開：名古屋市・名古屋港管理組合】


高度処理水を活用した壁泉（ささしま高架下広場）

高度処理水を活用した壁泉（柴田水処理センター）

⑤　水上交通の活性化【企画・実施：名古屋市・名古屋港管理組合／事業展開：舟運事業者】

中川運河体験乗船

乗船場の設置（堀川）

（３）開発イメージの実現に向けた民間支援策（ソフト施策）

	民間支援策	主な企画・実施主体	主な事業展開主体
①	狭小な土地も対象とした沿岸用地公募（公募対象の拡大）	名古屋港管理組合	商業事業者 芸術家
②	行政主導での倉庫のリニューアル、利用者公募の社会実験（民間拠点の誘致）	名古屋市 名古屋港管理組合	商業事業者 芸術家
③	緑地等への PPP 等によるカフェやレストランの誘致（民間拠点の誘致）	名古屋市 名古屋港管理組合	商業事業者
④	芸術活動の拠点整備（芸術活動への支援）	名古屋市 名古屋港管理組合	芸術家
⑤	ARToC10（中川運河再生文化芸術活動助成）（芸術活動への支援）	名古屋市 名古屋港管理組合 名古屋都市センター	芸術家

① 狭小な土地も対象とした沿岸用地公募【企画・実施：名古屋港管理組合】【事業展開：商業事業者・芸術家】

橋詰を活用した飲食店（福岡市）

河川敷を活用したカフェ（隅田川）

② 行政主導での倉庫のリニューアル、利用者公募の社会実験

【企画・実施：名古屋市・名古屋港管理組合】

【事業展開：商業事業者・芸術家】

倉庫を活用した展示の例

③　緑地等への PPP 等によるカフェやレストランの誘致

【企画・実施：名古屋市・名古屋港管理組合】

【事業展開：商業事業者】

川沿いのカフェ（神戸市）

④　芸術活動の拠点整備

【企画・実施：名古屋市・名古屋港管理組合／事業展開：芸術家】

展示スペース兼インフォメーション（横浜市）

参加型ワークショップ（豊橋市）

⑤　ARToC10（中川運河再生文化芸術活動助成）

【企画・実施：名古屋市・名古屋港管理組合・名古屋都市センター／事業展開：芸術家】

シンボルとなる芸術作品（直島）

倉庫を活用した作品展示（横浜市）

４．中川運河の魅力発信（ＰＲ戦略）

現状では中川運河やにぎわいゾーンの認知度が低く、良いイメージが持たれている状況ではない中、イメージアップをめざすとともに、事業者を対象に進出意欲を促すため、ＰＲ戦略を構築し、情報の発信やコンテンツの創出等に努めます。

目標年次は行政によるまちづくりのきっかけづくりとして、リニア中央新幹線開業の 10 年後を意識しつつ、ささしまライブ 24 地区の土地区画整理事業が完了する概ね 5 年後をイメージします。

ＰＲ戦略の展開にあたっては、まずはエリアのキャッチコピーの制定により方向性を明示し、情報発信する「コトバ」を明らかにします。そして、情報発信と発信すべき魅力的なコンテンツの創出を繰り返し行うことで、にぎわいゾーンの魅力を高めます。

＜目標＞

◎まずは市民を始めとする名駅周辺への来訪者をターゲットに、にぎわいゾーンのイメージアップをめざすとともに、事業者を対象に進出意欲を促すものとする。

＜目標年次＞

◎行政によるまちづくりのきっかけづくりとして、10 年後を意識しつつ、概ね５年後をイメージ

（平成 33 年度：ささしまライブ２４土地区画整理事業完了
平成 39 年：　リニア中央新幹線開業）

＜ＰＲの展開　その０＞「エリアのキャッチコピーの制定による方向性の明示」

【現状の課題】

○低い認知度（愛大学生：知らない・あまり知らない＝約８割）

○良いイメージを持たれていないこと

【他都市の事例等】

○キャナルシティ（博多の複合商業施設）、キャナルウォーク（豊洲の遊歩道）、

キャナルテラス（大阪のレストランモール）

○堀止周辺の公園等の親水空間エリアの愛称をまちびらきに合わせ募集予定

【方法】

○一般公募

○愛知大学学生対象の公募

【内容】

○スマホの普及などを考慮し、20 文字程度以内で端的に表すものを

○場所が分かるように、「ささしま」の４文字を含める

（イメージ）「水辺を歩くまち　ささしまキャナルフロント」

＜ＰＲの展開　その１＞「情報発信」

【現状の課題】

○発信するコンテンツの不足

○発信するコミュニティの不足

【めざす姿】

「ここをにぎわせようとみんなが思うようになる」

【方法】

○情報発信役の構築・強化

（リノベーション施設の担い手コミュニティ、エリアマネジメント組織）

○市の媒体を利用した発信

○SNS 等による「口コミ」発信

＜ＰＲの展開　その２、その３＞「魅力的なコンテンツの創出」

【現状の課題】

○効果的に魅力度を高める方法が不明確

○事業費の確保

【めざす姿】

「あそこはいい感じだよねと多くの人が感じるようになる」

「芸術家たちがここに住みたくなる」

【方法】

（ハード的なコンテンツ：「モノ」）

○魅力度の高い店舗やアトリエ等の誘致

○夜景演出の社会実験（橋梁、倉庫のクレーンのライトアップなど）

○散策路・ジョギングコース整備の事業化

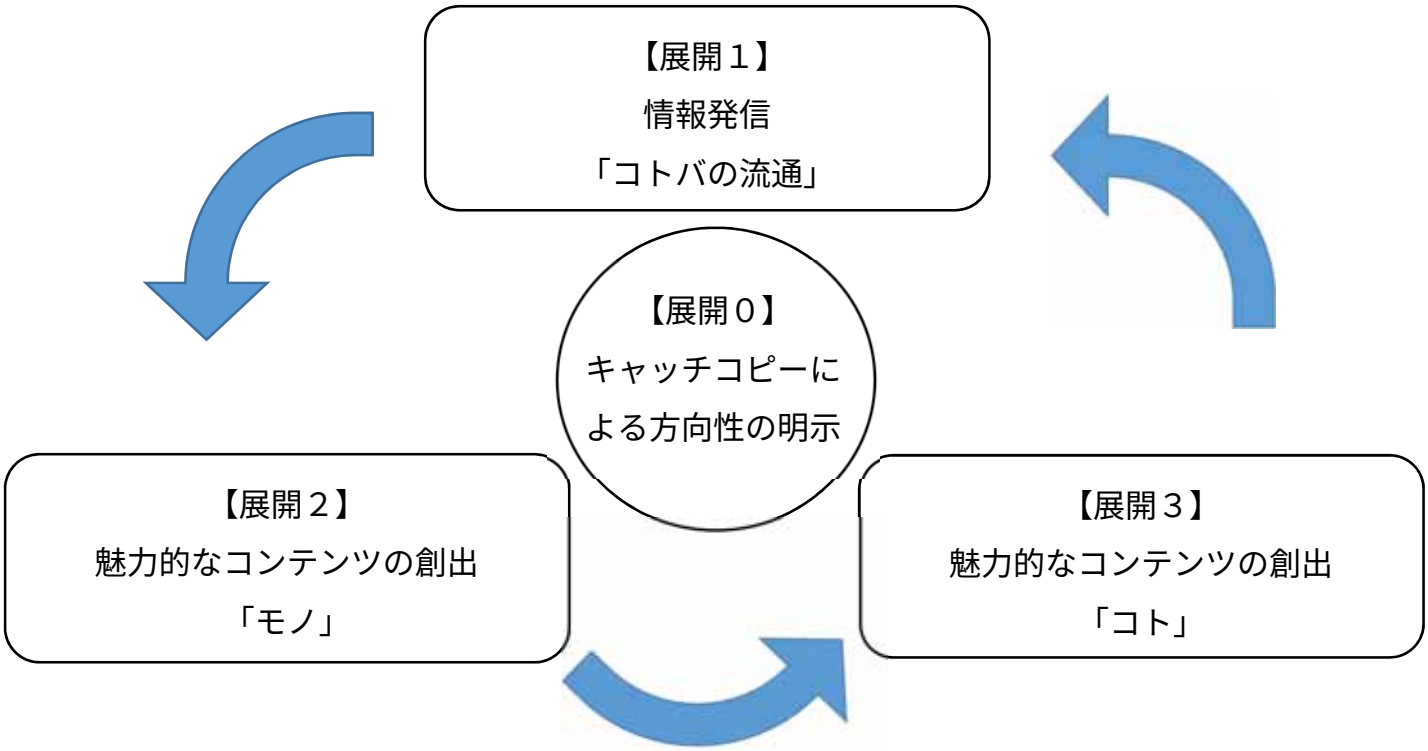
○水質改善

（ソフト的なコンテンツ：「コト」）

○民間主体のイベントの誘導（堀止周辺の公園等）

○地元主体のイベントの実施（露橋水処理センター上部空間）

ＰＲ戦略の展開イメージ



コンテンツの創出、情報発信を繰り返し行うことにより、にぎわいゾーンの魅力を高める。

５．今後の進め方

（１）にぎわい創生プロジェクト全体の進め方

今回懇談会でご意見を伺いながらとりまとめた「にぎわい創生プロジェクト」を実行計画とするため、中川運河再生計画を進行管理している中川運河再生推進会議に諮り、プロジェクトの位置づけを明確にしていきます。また、「にぎわい創生プロジェクト」には調整課題がある事項や、規制緩和をはじめとする取り組みが含まれており、引き続き具体化の検討が必要です。

平成29年度においては、にぎわい創生プロジェクトの熟度を上げるとともに、ＰＲ戦略、沿岸用地の利用者の意向調査、沿岸用地を活用したいという若手起業家やアーティストへのヒアリング等を実施することで、具体的な動きを加速させていきます。

（２）３大プロジェクトの進め方

にぎわい創生プロジェクトについて、スピード感もって進めるために、全体の進め方と並行して、３大プロジェクトを以下の方針で進めていきます。

ア　堀止東側の市有地でのエリアの拠点づくり

ささしまライブ24地区における土地区画整理事業の事業収束（平成33年度）を見据えて、民間事業者公募等の事業化を図ります。

平成 29 年度　　事業者ヒアリング
平成 30 年度　　募集要項作成等
平成 31～33 年度　事業者選定・工事等

イ　沿岸用地の規制緩和による回遊拠点づくり

沿岸用地の規制緩和による倉庫等のリノベーションを実現するために、既存の倉庫所有者及び倉庫等を活用したい担い手となるアーティストやクリエーターへのヒアリングを実施し、社会実験による規制緩和等の検討を行います。

平成 29 年度　　沿岸用地倉庫等所有者ヒアリング
　　リノベーション施設の担い手コミュニティ形成
平成 30 年度　　事業化の熟度が高まった時点で、社会実験として規制緩和を実施

ウ　エリアマネジメントによる公園等へのイベント拠点づくり

エリアマネジメントによる公園等の管理レベルの高質化と、多様なイベント開催によるにぎわいづくりを図るため、まちづくり協議会や地元自治会等との調整をすすめます。

【堀止地区】

平成 29 年度　ささしまライブ 24 地区のまちびらきによるイベント開催以降、継続的なイベント活用調整

【露橋地区】

平成 29 年度　露橋水処理センターの上部空間における地域主催イベントによる、にぎわい創生への調整
平成 30 年度　上部空間工事完了予定

参　考

中川運河にぎわいゾーン検討懇談会　開催の経緯

開　催　日	内　容
平成 28 年 7 月 25 日	第１回中川運河にぎわいゾーン検討懇談会 （現状と課題、デザインシャレットの成果）
平成 28 年 12 月 5 日	第２回中川運河にぎわいゾーン検討懇談会 （にぎわいゾーンのまちづくりイメージ）
平成 29 年 2 月 8 日	第３回中川運河にぎわいゾーン検討懇談会 （ＰＲ戦略、取りまとめイメージ）
平成 29 年 2 月 23 日	第４回中川運河にぎわいゾーン検討懇談会 （取りまとめ）

中川運河にぎわいゾーン検討懇談会　委員名簿

	氏　名	所　属　等
有識者	秀島 栄三	名古屋工業大学大学院　工学研究科　教授
	平野 裕加里	アナウンサー／有限会社ＬＩＢＲＡ　代表
	宮脇 勝	名古屋大学大学院　環境学研究科　准教授
各種団体等	浅黄 栄一	豊田通商株式会社　建設事業部　ささしまプロジェクト推進グループ　グループリーダー
	伊木 善秀	中川運河利用者懇談会　会長
	大竹 正芳	名古屋商工会議所 企画振興部　地域・都市整備グループ長
	小澤 勝志	リンナイ株式会社　管理本部広報部　参事
	篠田 知堅	名古屋鉄道株式会社 不動産事業本部開発部　企画課長
	白石 吉彦	中京テレビ放送株式会社　総務局次長
	長谷川 尚孝	愛知大学　名古屋総務課　課長
	雛元 昌一郎	三菱地所株式会社　名古屋支店　次長
	村山 明文	三井不動産株式会社　中部支店事業グループ　統括

（五十音順）

オブザーバー

國村 一郎	国土交通省中部地方整備局　河川部　河川環境課長
板生 考司	国土交通省中部地方整備局　港湾空港部　港湾計画課長
小笠原 洋和	国土交通省中部運輸局　観光部　観光企画課長
塚本 隆保	名古屋港管理組合　港営部　管財課長
城 育巳	名古屋港管理組合　建設部総合開発課　担当課長
藤井 由佳	公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター　調査課長
松葉 秀樹	名古屋市上下水道局　技術本部計画部　下水道計画課長

事務局

西村 浩幸	名古屋市住宅都市局　都市整備部　臨海開発推進室長
佐々木 浩二	名古屋市住宅都市局　都市整備部主幹（港関連事業等）